

多古文化

・題字 佐藤静峰

発行 令和7年2月15日

●特集 インタビュー

池坊に魅せられて

華道部 池坊花香会

会長 安藤富枝さん

第20号



多古文化 第20号

目 次 contents

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
令和六年度多古町文化協会役員・理事名簿並びに令和五年度収支決算書・令和六年度収支予算書 視察研修に参加して 編集後記	オカリナの音色に誘われて 器楽部 多古リブス 高橋 宮乃	押し花グループ「道ばたの詩」の活動について 手芸部 花すみれの会 馬場 祥子	古筆に魅せられて 書道部 筆まめの会 堀部 治夫 体と心の健康を維持するために ダンス部 ピアダンス 熊坂 睦子	子供囲碁教室開始!! 将棋の一番長い日 囲碁部 多古町愛碁会 越川 節子 将棋部 多古町将棋愛好会 大木 悟	有季定型の俳句を学ぶ 川柳を始めてみませんか 俳句部 多古町俳句会 小倉 光男 あれから20年 民謡部 和楽会 佐藤 克己 舞踊部の試み 舞踊部 多古町舞踊連合会 平山美知子	多古美術会の活動報告 花文字に心を込めて 美術部 多古美術会 穴澤 誠 イメージに基づき作品制作 美術部 多古花文字の会 高橋 宮乃	花に寄せて 文化祭に参加して 華道部 池坊花香会 安藤 富枝 華道部 池坊花香会 秋山 裕子 写真部 全日写連北総支部 安藤 富枝	心水流詩絃心水会 インタビュアー 池坊に魅せられて 華道部 池坊花香会 安藤 富枝	友人 茶道部 表千家 菅澤 環	目次 会長挨拶 文化祭の交流を期に 会長 前橋 敏行	表紙

文化祭の交流を期に

多古町文化協会

会 長 前 橋 敏 行



今年度の文化協会の新たな取り組みとして「他市町村との交流」と「文化祭実行委員会の創設」が特筆に値することだと思っています。

昨年二月、芝山町文化協会から芸能発表会を盛り上げるために多古町と交流させてもらえないかと言う要望がありました。早速、コーラス部、ダンス部が芝山町文化センターへ出向き、発表させて頂き大変喜ばれました。更に町の文化祭には横芝光町の津軽三味線桃和会の皆様に参加して頂き素晴らしい演奏を披露して戴きました。お互いに文化祭交流を行う事が出来、とても新鮮な感じがしました。

今年度から発足した実行委員会の皆様の努力により文化祭の盛り上げにも成果が見られました。また、こうした活動が奏功して新たなエネルギーが生まれてきているように感じました。

今年度は総会の後の講演会が六年ぶりに実施出来たこともうれしい事でした。講師の山崎先生の講演は、様々な経験に裏付けられた豊かな人生観がにじみ出ていて、参加者に大きな示唆を与えて下さいました。

多古町には各部門に造詣が深い方が沢山おられます。このような方々のお話を是非とも講演会にて聴きたいものです。ご推薦をお待ちしております。

昨年は多古町の町村合併七十周年記念の年でした。町の発展と共に、文化協会もまた新たな目標を持ち、芸術文化の担い手としての役割を果たしていきたいと思っています。今後とも、皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

各部の動き

茶道部

友人

表千家 菅澤 環

幼馴染の友、学生時代の友、社会人になってからの友、人生の節目ごとに友人を得る機会は沢山あります。私は、子育て中に得た二人の友と今でも食事やコンサート等を楽しんでいます。二人とも定年を迎え、ひと段落、家族の世話をしながらも自分の時間を持てるようになったところで、私が町の保健推進員へとお願ひしたところ二人とも快く受けて頂き、地域活動に励んでくれています。そんな二人を私は趣味で習っている茶道教室へ誘ってしまいました。会員減少で先行きが心配でしたが、二人が入会してくれたお蔭で賑やかさを取り戻せました。表千家の茶道教室は月二回のお稽古で、二人は休まずしっかりと出席してくれています。

自分の時間をどう使うのか、推進員として地域活動で充実した時

間を持ち、趣味として自分磨きの茶道を習う、とても生き生きとした二人です。お稽古の時間は家族の話や旅行の話、日頃のストレスの発散の場にもなっています。

時間を大切に有意義に使う、自分のやりたいことに使う、一日何もしなくても過ぎてしまう時間、二人の時間の使い方を尊敬しています。これからも楽しく長く一緒に楽しみながら茶道を身につけていきたいと心から願っています。



詩吟部

心水流詩絃心水会

多古支部心友会 安藤 富枝

最近、簡単に「心友会」と言っていました。柏から西澤心童先生が来て下さる時から、その流派の支部として活動し、私が平成十四年三月に並木美代先生からの電話で加入させて頂いた時には三十名位の会員でした。

この会の出発は、島の正覚寺を会場として、大木喬さん達によつて誕生した様に伺いました。そして七、八十人の会員が居た時もあつたそうです。私は六十五才で、会社を退職した五ヶ月後でしたので、これ迄とは違った空気の場合が、とても新鮮で楽しかったです。しかし私の後から入会してくれた人は十人位で、その後は、だんだん少なくなり、先生が来られなくなつてから、この心友会は解散してしまいそうな雰囲気になつたのですが、この会へ出席する以外、何処へも出掛けない人もいて、その人にとりましては、心友会が生き甲斐である様に思われました。これ迄西澤先生に教えて

多古町芸能発表大会



頂いた漢詩や新しい民謡吟又歌謡吟を復習して、文化祭には必ず出ようと励んで参りましたが、新しく加わって下さる人もなく、とうとう四人になつてしまいました。永い年月の間この多古町の詩吟の会を続けて下さった人々に、申し訳御座いせんが、どうぞ御許し下さいませ。御願ひいたします。心友会閉会の挨拶とさせていただきます。

合掌

インタビュー 池坊に魅せられて!!

ゲスト

華道部 池坊花香会

安藤富枝さん

聞く人

多古町文化協会

副会長 大野恵子

大野.. 本日はお寒い中をお越し頂き誠に有難う御座います。

早速ですが、自己紹介をお願いします。

安藤.. 私は、昭和十一年に多古町仲町で生まれました。小学校に入るまで外で遊んだ事がありません。いつも祖母に本を読んで貰っていた様に思います。学校に入っ



も土いじりをしたことがありませんので、花を育てるのは少しも出来ません。プロが育ててくれた草花を切って生けるだけが楽しみでございます。

大野.. 華道に触れるきっかけは?

安藤.. はい、婚約者に戦死された叔母が、終戦直前、家で近所のお嬢さん方に生け花を教えていました。私も小学

五年生になった時から中学三年卒業まで習いました。それがきっかけですね。

大野.. 華道の良さはどこにありますか?

安藤.. そうですね。木の枝や花が花器に生けられると、本当に生き活きとして喜んでいく様になって見る人をも優しい気持ちにさせます。又男の子の様な振る舞いの女生徒さんが、二年生になる頃にはとてもお行儀が良くなるのも、華道のお陰なのではないかと多古中の華道クラブをお手伝いさせて頂いて思いました。

大野..

華道の池坊を選ばれたのはどのような理由からでしょう

か?

安藤.. 池坊は、聖徳太子

と小野妹子が山遊びの後に



足を洗った池で、その時懐の如意輪観世音菩薩を一時置いたのが動かなくなってしまう。そこにお堂を立てて祭ったのが六角堂です。遣隋使の後、剃髪し、聖徳太子を偲び小野妹子が供養の道に勤しみ仏教の隆盛と共に発展しました。大東亜戦争前後、華道、茶道は花嫁修行の為に習ったものです。池坊は、日本一古い伝統のある流派で一番盛んで、叔母が資格者だったからですね。

大野.. いつもお着物をお召ですが、安藤.. 私の生家は呉服屋でした。二十二歳で嫁ぐ時、毎日のように和服を着ていましたので、そのまま続



いて着て



いました。子供が男の子三人になって洋服になりましたが、四十三歳の時主人が亡くなりまして(株)安藤建設の社長となり、県土木事務所から招かれるとスーツに着替えて出掛けます。そんな時、母が「和服を着ていればそのまま行けるよ」と言ってくれたので、それからは毎日和服を着ています。かれこれ四十六年になりますね。

大野.. これからの華道についての抱負は如何でしょうか?

安藤.. 私が二十九年間中学校のクラブ活動を手伝わせて頂いた間に学んでくれた生徒さんが「お花が一番好き」と感じて、その後池坊大学で学ばれたとのこと。ある所で「先生」と声を掛けて駆け寄って来て下さった時に

は、一人の女性の人生に役に立ったのだと嬉しくなりました。中学生くらいの年齢で生け花に触れる事は大切だと思います。現代は色々派手なことが多いので生け花の良さが理解されません。理解ある親御さんがお子さんやお孫さんに勧め

大野…本当に仰る通りですね。では最後にこれからの抱負をお願いします。

安藤…生け花を習っていると、四季を感じます。また、小さな花のちよつとした表情も見える様になり、刺激に敏感にもなります。池坊の華

華道部

文化祭に参加して

池坊花香会 安藤 富枝

今年は、参加させて頂いて、四回目の文化祭となりました。私達の作品を観て下さった方は、その

何倍もの人がいらつしやると思われますが、とりあえず会場の右の隅に置いてある芳名簿にお名前を下さった方が、七〇名近くいらつしやいます。私は本当に嬉しいものですから、老婆の顔入りになつてしまいましたが、絵葉書にして送らせて頂いております。遠慮なさらず御署名を下さい。

四人の会員で、毎年いろんな生け方に挑戦しております。今回は、面白い型の花器と出会えたも



のですから、三つの花器で、三人一緒に、作品を試してみたいと思いました。楽しく観ていただけで、御感想をお聞かせいただけただけです。私達も嬉しゅうございます。

五月に日本橋三越本店で開催された池坊展に行つて参りました。いろんな花材で、いろんな生け方で、一八五人づつ三回展示するのですが、その一回だけ観ただけでも、その中には、又珍しい花材があつたり、素晴らしい生け方があつて、その様な生け方を習つてみたいと思いました。そして皆様に観ていただけたら、嬉しゅうございます。

会員皆で、お待ちしております。

エッセイ

花に寄せて

短歌部 秋山 裕子

お茶でも飲もうかと立ち寄った喫茶店には「ようこそ」とばかりワゴン一杯に冬の花々が色とりどりに盛られ、どの店も競うように置かれていた。迎え花と言ふのだから訪れる人の気持を和ませてくれる。

私にも昨春秋、素適な花との出会いがあつた。いま玄関にすんなりと茎を伸ばし天辺に線香花火のように愛らしいピンクの花をつけている七本の桜草である。短歌講座の仲間の男性が種から育て二十

のお別れに於いても見事な花の祭壇、旅先で出会つた自然の花、世界各国から届いた蘭展の花、人は折々の花に触れ永遠に癒され続けるであろう。

新年を祝ふ備前の壺に映ゆ庭にて切りし残菊の白

写真部

入賞の喜び

全日写連北総支部 平山 幸夫

全日写連千葉県本部主催によるコンテストが行われました。課題は千葉の自然です。写真を県内で撮りためたなかから一人五枚以内ということで応募しました。北総支部からは三名が選ばれました。一度に三人も入賞するとは北総支部始まって以来で驚きを隠せませんでした。会員みんなで喜び合い増々写真を撮ることに意欲を燃やしました。そんなとき撮影会に行きました。只見線を列車が走る姿を写すんですが、渓谷の上を一瞬に通過すると思ったら、ゆっくり走ってくれました。ラッキーでした。観光のため乗客に渓谷を見てもらうためにスピードを緩めるそうです。最初は緊張しましたがおかげで良い写真が撮れました。しかし参加者全員同じ被写体を狙っているの、審査のとき講師がどう選び方をするか勉強になると思います。撮影のポイントを求めて山にかこまれた田園風景のなか、のんびり散策を楽しんだことが印

象に残りました。私たちの目的とする、「写真文化の向上と会員相互の親睦を深め、写真を通じて社会へ貢献することを目的とする」良い撮影会ができました。私たちのクラブも会員が減少しています。写真の好きな方、友だちになりませんか。ご一報下さい。



全日写連北総支部 奥会津撮影会 只見町みな川旅館にて 2024年(令和6年)10月26日~27日

美術部

多古美術会の活動報告

多古美術会 穴澤 誠

私達の美術会は、この間の活動として、二つの絵画教室をもうけて「絵画の楽しさ、技術の向上」個

人の主張、「創造性」を追求していきます。結果としてそれらは、会員の増加につながっています。

又、個人会員の活動としては、発信の場として、東京のギャラリー、美術館、各種展覧会、多古町文化祭や成田市を中心とした地域の美術団体への参加もあり、多様な活動もしております。

活動の場は海外でもあり、九月にはニューヨークでの展覧会もありました。

先日、市原湖畔美術館での深澤幸雄、佐倉市川村美術館での企画展やロスコを鑑賞してきました。

今、アート界はさまざまな表現が広まっています。平面作品、立体作品、映像、インスタレーション又は、アニメ作品など多種多彩です。イギリスでのオークションではバンクシー作品が落札されたと同時に半分シュレッターにされその作品自体がさらに価値を生むとされています。ペインティングでも具象、心象、抽象などさまざまな表現があります。その中で自分の立地地を確認し、方向性をどう発展するのか？考えるべくわくわくしてきます。前記の優れた作家の作品を観ると強い刺激が脳に



響きます。

アートの世界は深く楽しいし、まず行動する事でしか解らないと考えています。

美術部

花文字に心を込めて

多古花文字の会 高橋 宮乃

多古花文字の会は、四年前から月一回第四火曜日九時から多古コミュニティプラザで活動しています。

現在生徒は七人ですが、講師の伊東緑先生が一人一人のペースに合わせて言葉を掛け、目の前で描いて見せて下さるので、楽しくおしゃべりしながらも集中できる充実した時間を過ごしています。

花文字は、中国で生まれた縁起の良い文字で、文字の中に良い意味を持つ吉祥絵をちりばめて描く

ことで、未来を明るく照らすと言われている。

基本の十三種の吉祥絵を最初に習い、選んで文字を構成していきます。同じ文字でも、選ぶ吉祥絵によって、全く違う作品になりますし、文字の上手下手に関係なく誰でも楽しめるのが良いところだと思っています。

お孫さん誕生やいろいろなお祝いにプレゼントしたり、ハガキに添えて便りを出したりして、皆さんに喜んでいただいています。

コミュニティプラザ二階に常設



展示してありますので、是非ご覧ください。見学や体験も随時できますので、気兼ねなく教室をのぞいてみてください。

陶芸部

イメージに基づき作品制作

どんねの会 小倉 光男

いきいきフェスタTAKO二〇二四文化祭が無事終わりました。陶芸部も多くの会員の方々の協力により、多くの作品展示がなされ楽しい作品展となりました。

私の作品作成経過をたどれば、まずはイメージを描き、それを具体的に見える化します。

粘土を選択しますが、粘土には目が粗いもの、細かいものがあります。また、色彩的にも白系、赤系、黒系と有りますのでイメージした作品により選びます。

選択した粘土を十分に捏ね、電動ロクロの中央に設置し、作品の作成に取りかかります。

最初の行程は、土殺しから始まりますが、目が粗い粘土だと小指の付け根から手首に掛け擦れて痛くなる場合があります。

次に粘土を立ち上げイメージに



沿って成形していきますが、大きさ・形に注意しながら作品の成形を行うためにロクロを回します。

この後、軽く乾燥させた後、表面を削るとともに、高台の削り出しを行い成形は終わります。十分に乾燥させ素焼をし、釉薬掛けを施した後本焼きします。この釉掛けが作品の成否を分けます。

窯を開けて作品を見た瞬間に、二か月かけた作品を割りたくなることが多々有りますが、一つ二つでも気に入った作品が焼き上がれば幸せな喜びを感じられます。

俳句部

有季定型の俳句を学ぶ

多古町俳句会 木内 慶子

俳句は句に季節感を与える季語を含み（有季）五・七・五の十七音の型で作る事を基本とする日本の



定型詩です。無季や自由律の句もありますが、今私が趣味として日記を付ける様に勉強しているのが有季定

型の俳句です。詩情性、口誦性、映像性、斬新性を心掛け句作に励んでおります。季語とは万人が共感できる詩情が既に備わっているので俳句歳時記を読んでいるだけでも楽しくなると思います。そして俳句は右脳で景色や光景を想像し、左脳で五・七・五の語数を合わせるため、非常に脳を活性化させると言われています。また創造した俳句を一息で何回も読むと呼吸筋力のトレーニングにもなるそうです。

是非皆様も俳句を詠み大自然の移ろいを感じ心豊かに過せます様に、共に勉強致しましょう。

会員諸氏の近詠句です。

縁側に鉛筆削る秋日和

緋雲空に大河のあるごとく

木内 慶子

鈴木 裕

台風の進路狂わす温暖化

西村 則子

いにしえに想いを馳せて巡る秋

野老 恵子

こぼれ萩墓への道のひとところ

高橋 宮乃

水琴窟心静かに秋の風

戸村しげ子

窓閉めて耳鳴りだけの秋の闇

渡部 健

俳句部

川柳を始めませんか

川柳会 佐藤 克己

川柳って何んだや?と聞かれても上手く答えるのが難しいので、辞書を引いてみると「五・七・五の三句十七文字からなる短い詩、生活や世相を諷刺し、滑稽に描写するのが特色」とあります。

年を取ると頭も体も衰えて来ます。それをいくらかでも防ぐ、そして日常生活の中にも、世相にも目を配り、それを五・七・五のリズムに合う言葉で表現する。頭の体操です。

そして、一歩外へ出れば色々な人と出合う世間が広くなります。又会話の機会も増え現役を引いて

からの長い老後をしつかり支える絶好の趣味です。

又若い方々こそ厳しい仕事の合間の息抜に、川柳で頭をほぐす事が、心身の健康の為に非常に良いと思います。

多古川柳会は、平成十六年の発足ですが現在は、高岡信喜会長を筆頭に、勝又文雄、渡辺喜一と私とで、銚子川柳会に参加、月一回の句会を楽しんでおります。

又社会教育課の「ゆうゆう塾」の中に川柳部門を加えて頂き、そこへ講師として参加、皆さんに川柳を理解していただき、仲間を増すことも含めて有意義な一時を、過しています。

人と世相の表裏を題材に、ユーモアと笑いを大切にする川柳は、心安く入れる世界です。

どうぞお気軽に、おいで下さい。

民謡部

あれから20年

和楽会 平山 美知子

私は、民謡が好きで、町主催の「民謡教室」に入会させて頂きました。あれから20年、その当時の仲間と、現在は名称を「和楽会」

として、津軽三味線のサークル活動をしています。仲良く三味線を楽しむ会にしようと発足しました。細々とですが、「継続は力なり」を目標に頑張っています。

三味線は、たった三本の糸で音色を表現できる不思議な楽器です。又、民謡は、手拍子があれば、リズムにのって調子よく唄えます。

先日はいきいきフェスタのことで、初日の始めと二日目の最後に「多古町音頭」に参加させて頂きました。私達は三味線担当で、舞台中央では、多勢の有志の方々が輪になって踊るというプログラムでした。唄は三味線を弾きながら、司会者の方も応援して唄ってくれ、そのうちに、会場の方々も踊り始め、太鼓の方、

各々皆さんが一つになり、大きな輪ができました。「多古はよいとこヨイコラサッサ」、あと一周、三味線を弾きながら唄っていたと思います。



舞踊部

舞踊部の試み

舞踊連合会 越川 節子

舞踊部から計報があります。昨年九月に錦照会の錦生馨照さん今年七月に和宗会の元柳和宗さん(けいしやう)が逝去されました。

お二人は多古町の舞踊文化を、現在に繋げてくださった功労者です。私達はお二人の思いを継いで精進して行きますので、これからも舞踊部の活動を応援してください。

今年の文化祭には、民謡部、カラオケ部、いきいきサポーター楓の皆様とのコラボレーションを試みました。お蔭様である程度の手応えを得ましたので、この経験を来年の文化

祭に活かせるよう情報を共有して行きたいと思います。

長年「多古町音頭」の普及に取り組んできましたが、今年のおじさい祭りには多くの人達が踊ってくださって大いに盛り上がりました。

コロナ禍前は中学生と一緒に踊っていました。さらに以前は小学校や中学校の運動会に全員で踊りました。学校の現状は厳しいと聞いていますが、郷土の伝統と地域性を詠み込んだ「多古町音頭」を教材にすることの教育的価値は大きいと考えます。

過日の文化祭でカラオケ部やコーラス部門の方々が綺麗な声で合唱するのを聞いて感動しました。芸能部門の方々と協力して「多古町音頭」を広めて行きたいと改めて意欲を掻き立てています。

囲 碁 部

子供囲碁教室開始!!

多古町愛碁会 大木 悟

子供囲碁初心者教室を今年度から始めました。

毎月第三土曜日の九時～十一時



まで、コミュニケーションの二階茶室で開いています。今までに、多数参加してくれました。

愛碁会の開催活動日は、

毎月第四土曜日に役場附属棟二階の和室に集まり、対局時間は午前九時半から十五時までに終わります。

将 棋 部

将棋の一番長い日

多古町将棋愛好会 堀部 治夫

ロシアがウクライナへ侵略して三年がすぎようとしております。この間のロシアの戦い方を新聞やテレビでみておきますと、人命の軽さや捕虜の虐待等、大日本帝国陸軍と似ている事に驚きます。これに加え日本兵は飢餓にも苦しんだようです。皆さんご存じの様に大日本帝国は昭和二十年に降伏します。この事により日本は、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）により戦領下に置かれ教育を



はじめ、様々な分野が規制監視される事となります。将棋もこの対象となりやがて・・・以下は（升田幸三自伝「名人に香車を引いた男」中央文庫より）ある日、GHQから将棋会の代表者に出頭が命じられます。呼びだされたのは、独創的な指し手、キャラクター、数々の逸話で知られる、将棋界の鬼才・升田幸三棋士でした。軍服を着た四、五人と通訳一人に対し、日本側は升田幸三棋士一人です。やがて質問が始まりました。「日本の将棋は、取った相手の駒を自分の兵隊として使用する。これは捕虜の虐待であり、人道に反するものではないか」ここを突いてくるだろうと覚悟していた升田棋士は、次のように答えました。「日本の将棋は、捕虜を虐待も虐

殺もしない。つねに全部の駒が生きておる。これは能力を尊重し、それぞれに働き場所を与えようとする思想である。しかも、敵から味方に移ってきてても金は金、飛車なら飛車と、元の官位のままで仕事をさせる。これこそ本当の民主主義ではないか。」一連のやりとりが五、六時間続き将棋は守られたのでした。

書 道 部

古筆に魅せられて

筆まめの会 林 弘子

入部のきっかけは、数年前文化祭で書道部の展示を見てとても穏やかな気持ちになったのがきっかけで入部しました。現在大河ドラマの中で、すばらしい古筆の文字が写しだされますが私も早くあの流れるようなながかけたらと思いつつ筆をもっています。

筆まめの会は今年で二十三年目の事ですが、活動としては月二回第二と第四水曜日前中、兼松先生のご指導のもと初心者はいろはにほへと」から学び、年数をかさねた方は平安時代の雅やかな変体仮名を学んでいます。活動と



しては、文化祭では日ごろ学んだ作品を二、三点持ちより展示しています。視察研修としては毎年一月に「日本書人展」が東京芸術劇場ギャラリーで開催されるので皆で見に行きます。我が筆まめの会からも兼松先生始め師範の方が出展されるので、皆も頑張って書に励んでおります。その他八月に広島県熊野町で開催される「全国書画展覧会広島県熊野ふれあい書道展」にも全員が出展しております。皆このように楽しみながら筆を執っています。皆様少しでも興味のある方は、是非筆まめの会へご参加お待ちしております。

ダンス部

体と心の健康を維持するために

ピアダンス 熊坂 睦子

健康的で楽しそうな教室だと思ったのがきっかけでピアダンスの教室に入り二十二年が経ちました。コロナ禍以前の教室は、あじさい祭り・ダンスフェスティバル・旭の七夕祭り等、色々なイベントにも参加しました。華やかな衣装を着て人前でダンスを披露する楽しさ、緊張感、達成感はとても貴重な体験でした。そして、コロナ禍の落ち着いてきた今は、体と心の健康を維持するために先生が年齢に合わせて考えて下さったメニューを行っています。準備運動・頭の体操を兼ねたダンス、そして最後にストレッチをします。ダンスは先週末までの復習から始まりますが、私をはじめほとんどの人が思い出すまでに時間が掛かります。そんな生徒たちを先生方は根気強く冗談を言いながら優しく指導して下さい、教室はいつも笑い声が絶えません。

ストレッチはそれぞれ無理のない体勢で行います。正座の困難な

人は椅子を使ったり足を伸ばしたままで、それぞれが出来る範囲で行います。音楽に合わせて普段あまり使わない筋肉を動かすのはとても気持ちが良いです。目標に向かって素敵な先生方や楽しい仲間たちと貴重な時間を共有出来る事はとても幸せな事だと思います。



手芸部

押し花グループ

「道ばたの詩」の活動について

花すみれの会 馬場 祥子

毎月一回、作品の仕上りを期待



しながら胸躍らせて成田から向かった多古コミュニティプラザ。押田道子先生指導の押し花作り「道ばたの詩」の活動に参加することで、いつの間にか多古町になじんだ思いがあります。

押田先生とは、成田ボンベルタ内での押し花作品作りの体験で、出会いました。その後、先生の魅力に引かれて多古町の教室に加入して、早くも十数年の時が流れました。私のグループ「花すみれ」は、土曜日にあります。先生のお人柄により、毎回三時間の教室内は、楽しくのびのびとした空



間に満ちています。先生は、個性を尊重しつつ、さりげなく、より美的な画面に仕上げて下さいます。私は押し花作りが生きがいとなり、今や出会いに大変感謝しています。植物が大好きな私ですが、押し花の材料を探すうちに、道ばたの所謂雑草の美しさに気付かれました。それらをうまく取り入れた作品にしようと努力しています。教室内では、思いを込めて仕上げた作品をお互いに眺めあい、完成の嬉しさを味わっております。押し花作品作りの「道ばたの詩」は、花すみれ・花てまり・ひまわりの三グループに分かれて、創意工夫に富んだ意欲的な作品作りに励んでおります。春と秋に、作品の展示をしております。是非、メンバーの皆さんの素晴らしい作品をご覧くださいたく思います。

器 楽 部

オカリナの音色に誘われて

多古リブス 高橋 宮乃

オカリナに出会いサークルを始め五年目になり、三人でスタートした多古リブスも、優しく透明なオカリナの音色に誘われて、今年には二十人に増えました。

銚子や旭、成田のサークルとの交流も広がり、一緒にコンサートをしたり、招待し合ったりする機会も増えてきています。

毎月第一水曜日の十一時に行うようになった「たこらば」での「オカリナと歌おう」も皆さんの歌に合わせてオカリナを吹くのが楽しく、練習の励みになっています。

今年は、人数も増えてきて、やりたい曲の難易度もアップしてきたので、成田市から前田圭代先生を講師にお招きすることになり、多古の文化祭ステージでは、圭代先生のピアノ伴奏で、思い切り演奏することができ感無量でした。十二月十五日の第四回目のクリスマスコンサートでは、ソロやデュオの演奏もありますので、是非お越しください。

令和6年度多古町文化協会役員・理事名簿

職 名	氏 名
会 長	前橋敏行
副 会 長	渡邊政治・大野恵子
理 事 長	小倉光男
副理事長	大木 悟・林かよ子
庶務会計	小川清治・三枝幸子
監 事	鈴木秀義・並木京子
顧 問	木川貴美子・小川重則

部 名	理事名	会員数	部 名	理事名	会員数
茶 道 部	菅澤 環	11	コーラス部	小川 清治	64
写 真 部	渡邊 政治	27	囲 碁 部	大木 悟	20
美 術 部	佐藤 隆	38	将 棋 部	堀部 治夫	57
陶 芸 部	小倉 光男	16	書 道 部	根本 和子	11
短 歌 部	秋山 裕子	10	カラオケ部	宇井 一夫	48
俳 句 部	渡部 健	23	ダン ス 部	小池 君代	150
民 謡 部	三枝 幸子	4	手 芸 部	桐谷 貞子	21
詩 吟 部	安藤 富枝	5	華 道 部	安藤 富枝	4
舞 踊 部	越川 節子	26	器 楽 部	高橋 宮乃	20
			合 計		555

令和6年度 多古町文化協会収支予算書

収入		支出		(単位:円)	
科 目	本年度予算額	科 目	本年度予算額		
会 費	278,500	会 議 費	10,000		
補 助 金	900,000	総 会 費	20,000		
寄 付 金	1,000	旅 費	5,000		
繰 越 金	735	消 耗 品 費	15,000		
積立金引落	70,000	通 信 費	10,000		
雑 収 入	1,000	各部助成金	900,000		
計	1,251,235	事 業 費	260,000		
		積 立 金	10,000		
		負 担 金	10,000		
		慶 弔 費	10,000		
		予 備 費	1,235		
		計	1,251,235		

令和5年度 多古町文化協会収支決算書

収入		支出		(単位:円)	
科 目	本年度決算額	科 目	本年度決算額		
会 費	285,000	会 議 費	10,530		
補 助 金	900,000	総 会 費	9,765		
寄 付 金	0	旅 費	2,140		
繰 越 金	94,546	消 耗 品 費	20,437		
雑 収 入	1	通 信 費	7,670		
計	1,279,547	各部助成金	900,000		
		事 業 費	310,270		
		積 立 金	8,000		
		負 担 金	10,000		
		慶 弔 費	0		
		予 備 費	0		
		計	1,278,812		

収入支出差引残金
(次年度へ繰り越し)

735円

積立金保有額 278,016円



通常練習は「たこらぼ」にて、第二四日曜日の九時から行っています。見学や体験だけでも是非おいで下さい。

これから和気あいあいの楽しい雰囲気大切に、多古に才力リナの音色を響かせたいと思います。

視察研修に参加して

今回の視察研修は、会員の方からの要望で、鋸南町出身の浮世絵師「見返り美人」で有名な『菱川師宣記念館』と市原湖畔美術館に二十四名の参加者の皆様方と訪れました。

菱川師宣記念館は、師宣の作品を中心に歌川広重、豊国、国芳ら後の浮世絵師たちの作品も展示されている他、浮世絵の歴史や浮世絵から見た江戸庶民の風俗も紹介していました。

菱川師宣は、ここ安房の国保田で縫伯刺繍業を営む父吉左衛門と母オタマとの間に、七人兄弟の第四子長男として誕生。幼い頃から絵を描くことが好きだった師宣は家業の刺繍下絵などを手伝い描く傍ら、狩野派や諸流派に接し、独学で画技を磨いたそうです。その後、江戸に出た師宣は版本の版下絵師として活躍、挿絵を大きく取り入れた絵本で江戸庶民の人気を獲得。更に木版摺の一枚絵を創始、絵画化の大衆化に貢献しました。これら師宣の歴史をまとめたDVDの上映もあり多くを学ぶ機会でした。



とても勉強になりました。昼食はすぐ近くの保田漁港直営の「ばんや本館」で釜飯コースを堪能しました。その後は道の駅「保田小学校」でお土産を購入。ここは廃校になった校舎を利用して営業しています。次は、市原湖畔美術館の見学です。銅版画家深澤幸雄氏の作品や制作時に使用した機材とDVDを観させて頂きました。

今回の視察研修は県内でもあり高速道路が繋がったこともあり時間に余裕のあるゆったりとした研修会でした。参加された皆様並びに役員の方々お疲れさまでした。



市原湖畔美術館

編集後記

令和六年度も間もなく終わり、新たな令和七年度が始まります。巳年は、今までの殻を脱ぎ捨てて新たなことを起こす年だと言われています。そのような時に多古文化第二十号を発行する事が出来新たな多古文化の編集を考えたいと思います。文化協会も経済的に大変厳しい状況ですが、厳しい中でも工夫をし、より良い多古文化を目指したいと思えます。皆様方からのご意見をお伺いできればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

(政)